

キャラクター名  
季契紗耶

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	学生
	ブラックドッグ					
オプション			年齢	17	性別	男(かわいい)
覚醒	忘却	衝動	飢餓	初期侵食率	40%	
出自	姉妹	経験	記憶喪失	邂逅	忘却	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	3	0	0			3	行動値	11
感覚	2	1	1			4	(非装備時)	11
精神	3	0	0			3	戦闘移動	16
社会	0	0	1			1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		R C	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
リニアキャノン		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
患者の心臓	P	N		
雷帝	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
C:ブラックドッグ	2	2						
効果:								
ハードワイヤード	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: [Lv.]個選択して武器を取得。基本+4。								
螺旋の悪魔	2	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: 暴走状態を付与。ダメージ+[Lv.]*3。								
レックレスフォース	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: メジャーの判定を+[Lv.]個。侵蝕補正なし。基本+2。								
アームズリンク	3	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 判定+[Lv.]個。								
原初の黒	1							
効果: [制限:-]or[制限:100%]の効果をLv.1で取得。基本+3。コスト+2。								
黒:ラストアクション	1	7	オート	至近	自身	自動	100%	
効果: 戦闘不能時にもう1度メインプロセスを行う。1シナリオ1回まで。								
D:ミカツチ	1	6	メジャー	-	-	対決	D	
効果: ダメージを+3D。1シナリオ[Lv.]回。								
セキュリティカット	★	1	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果: セキュリティをカット。								
タッピング&オンエア	★	1	メジャー	視界	効果参照	自動	-	
効果: 端末無しでTweet!								
効果:								
効果:								
効果:								

きぎり さや。  
双子の姉は季契美紗。

◆記憶を失う以前  
・暗くもなく明るくもなく。ただし、「患者の心臓」で体調を崩した際は周りに対して腰が低くなる。  
・他人行儀にならないのは美紗にだけだ。  
・「周りに迷惑をかける」のがまならない理由であることは知っているが、どうしても受け入れきれない。  
・そのため、UGNが人手不足のときには積極的に手を貸していた。  
・「患者の心臓」の影響で身体が弱く、物心ついたときからほとんど病院に通いつぱなし。  
・そのため、都合をつけて病院(研究施設)の一部に住んでいる。  
・流石に病院だけあって、騒音がなく暮らしやすいので生活に文句はないとか。  
・雨月には心を開いている。学校生活、将来、そんなことを話しては笑顔を見せていたようだ。  
・一方で氷月には苦手意識を抱いていた。ただ、どこかシンパシーを感じていたらしい。(長期入院)  
・美紗とは「互いに心配をかけるようなことはしない」という約束をしているため、高校以降は別々に行動することが増えた。  
例)「美紗に新しい友だちができたとか。ゴシップが好きらしく、話題に事欠かないみたいだ。仲良くしてくれているようで、最近明るい表情を見ることが増えた、気がする」 一日より

・日記をつけていたが……。

◆戦闘スタイル  
記憶を失う以前の戦い方を覚えていないため、他人の能力をウロボロスで模倣する。